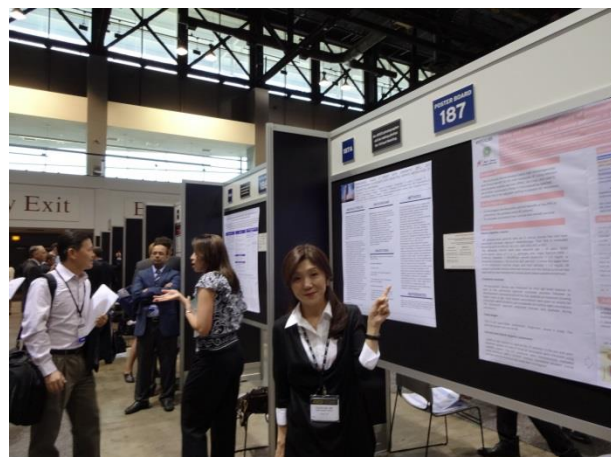


## ASCO & IAEA

淡河恵津世

2014年5月30日～6月4日の期間、シカゴで開催された ASCO (American Society of Clinical Oncology) に、乳腺外科の唐先生の演題(免疫治療関係「Safety and immunologic efficacy of personalized multiple HLA class I-restricted peptide vaccines for breast cancer patients in the adjuvant setting」)の共同演者として参加しました。本会は ASCO50 周年記念の学会でしたので、特に多くの参加者がいて、ホテルがほぼ満室の中、ようやく見つけての参加になりました。久しぶりの一人海外の旅になり、初夏のシカゴに行ったわけですが、2年前に ASTRO (アメリカ放射腫瘍学会) の帰りにハリケーン・サンディが来て、シカゴまで行けず大変な思いをしたこと、10数年前に RSNA (北米放射線学会) でシカゴに行った帰りにいきなり飛行機が機種変更となり予定の国内線に乗れず成田に足止めになったこと、など思い出し、何かとシカゴのオヘア空港は事が多いなあ～(\*^\_^\*)～と心配していましたが、現地では乳腺外科の先生方と一緒に行動していましたので、無事に過ごすことができました。学会会場は、RSNA と同じ McCormick Place であり、Palmer House Hilton からはシャトルバスで移動できましたので、まあ普通に快適でしたが、ホテルの場所としてはちょっと女子ひとりでは怖かったかな。しかし、学会の間にホテルの近くのシカゴ美術館にのんびり行けたのは、有り難い時間でした。学会の内容は、化学療法や分子標的療法が主で、数年前と比較して驚いたのは免疫療法のセッションが絶対的に多くなっていることでした。乳癌の分野では、腋窩郭清の考え方をどうするのか?つまりセンチネルリンパ節生検で陽性であった場合にどうしたらいいのか?というのは日本と同様の話題になっていました。一方、Tamoxifen (なじみのある商品名はノルバテックス) の信頼度は日本よりも強い印象ですし、乳癌治療後のダイエットは大切!という話が普通にあったりして、やっぱり面白い内容ばかりでした。脳転移についても討議はつきず、全脳照射 vs 化学療法の間解析や、全脳照射+局所照射 (SRS) に Temozolomide を入れた方法が予想に反して Temozolomide を入れない方法より長期生存率が低下したなど、化学療法が進化していく中における放射線療法の立ち位置を考えさせられました。



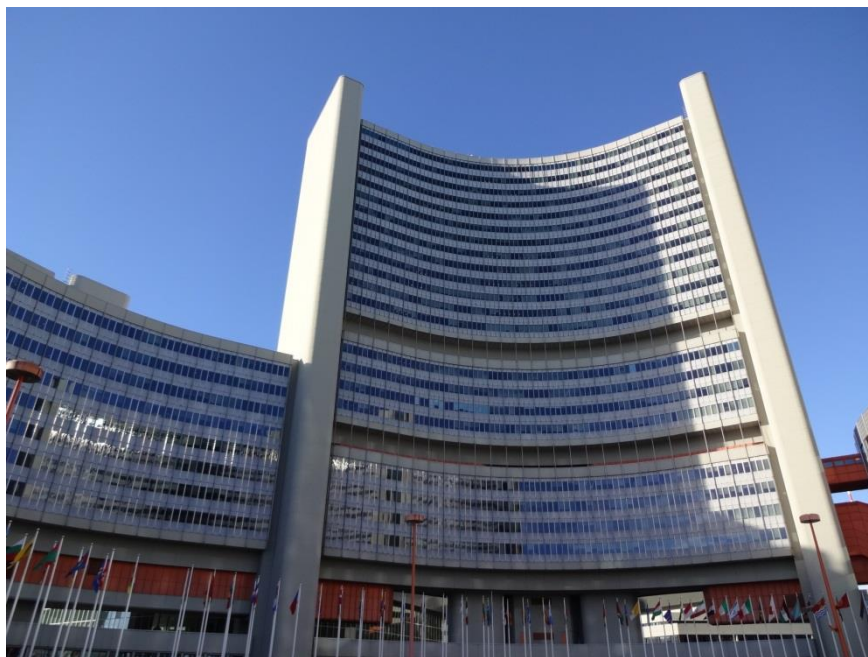
シカゴ滞在時間は少なかったものの RSNA では経験できないミシガン湖クルーズに行き、暴風に驚き意外に寒く、初夏のシカゴは日差しも強く過ごしやすかったものの、シカゴは“風の町” だなあ〜としみじみ感じました。



次なる報告は IAEA (International Atomic Energy Agency: 国際原子力機関) 訪問についてです。IAEA 本部はオーストリアのウィーンにあり、原子力の平和的利用の促進、原子力の軍事的利用に転用されることへの防止という目的が有名であり、よくテレビにも出てくる国際機構です。なんとなく原子力の方で有名な印象ですが、放射線医学とは関連が深く、この機関の中に世界の放射線療法や放射線診断の調査をする部門があるのです。IAEA のビルの横には国連のビルがあり、ウィーンは国連都市としても有名なのですが、案外知らないまま暮らしているような気がします。放射線医学研究所の今井先生が IAEA に出向になっているのを理由に 2014 年 12 月クリスマス前に訪問することにしました。今井先生は忙しい中、ほぼ毎日私につきあってくれて、感謝の日々でした。彼女は以前にも 2 年ほど IAEA に出向にしていたことがあり、2 度目の滞在でしたので、ウィーンの色々を熟知していましたので、空き時間には季節柄クリスマスマーケットを回り、ヨーロッパのクリスマスを堪能させていただきました。ウィーンには学会等で訪問された方も多くいらっしゃると思いますが、まあ〜私一人旅ですので、ウィーン国際空港からは CAT (City Airport Train) にのり、地下鉄に乗り換え、なじみ (といっても 2 回目ですが) グランドホテルに向かいました。グランドホテルは以前日本のオーナーであった歴史があり、ウィーンでも有名な和食レストランが入っていたり、スーパーが隣接していたり、オペラ座の近くだったり快適なホテルです。

IAEA に入るときは、紹介スタッフの証明とパスポートで仮の ID を作ってもらい、空港のセキュリティーのようなゲートを通過して内部に入ります。(当たり前ですが) 非常に国

際色豊かな職場で、社員食堂も楽しかったのですが、非常に快適なカフェがあり、日本には考えられない職場環境でした。2009年より放射線療法部門の統括は日本人で Dr. Amano で、写真付きで紹介されていました。放射線科医としては何となくワクワクする施設で、世界の放射線医学の管理をする部門がここにあるんだということを学べて楽しい時間でした。テレビで IAEA と国連の入口は出てきますが、日本の国旗がほぼ中央にあり、1995年に日本相撲協会より進呈された“The Bell”とかあって、テレビではわからない細かいものを知ることができ、非常に満足の時間を過ごすことができました(\*^\_^\*)



IAEA 入口



“The Bell”



日本国旗は噴水のほぼ中央に位置する

食事はヴィーナーシュニツェル（豚の薄いカツレツ）、ターフェルシュビッツ（牛肉の煮込み風）を地元の人がよく行くレストランでいただき、ちょっと寒い夜のクリスマスマーケットを周り、オペラや楽友協会で音楽を堪能し、ウイーン少年合唱団の歌を教会のミサの後に聞き、短い滞在時間の中でぎゅっと凝縮したウイーンを楽しめたのも今井先生のおかげだと思います。どうもありがとう～(^^)/



←この女性が描いたシュテファン寺院の絵を購入に記念撮影



今井先生とブタペストにて



ハンガリー国旗



ブタペスト首都旗

色々な先生方との出会いは本当に有難く大切なものです。今できることを頑張っていると答えは数年後にわかることもあり、「人生に無駄な出来事はない」と改めて思いました。このような素晴らしい時間と機会をあたえていただいた放射線医学教室に感謝いたします。